

證人ノ事項調査

一九四六年三月十四日太平洋地區軍事檢察官法務
中佐「シユルイテコフ」ハ虚偽ノ陳述ニ對スル責
任ヲ警告シタル上証人トシテ審問ヲ行ツタ 署名

一姓・名・父姓、 スリ・リス・アレキサンドロヴィチ

ニ年 齡 一九〇八年生

三出生地 サラトフ市

四十月革命マデノ職業 両親ノ僱農ニテ生活ス

五現職業 汽船二等運荷士

六教 育 (卒業學校) 中等工業學校

七被告トノ關係 關係無し

八生 家 労働者ノ家庭出身

九裁判關係 ナシ

十黨關係 ナシ

十一本籍及現住所 ヴラデオストロク、ベストウ

デエーワ三五號舊宅住宅

本管ニ關シ私ノ証言シ得ルコトハ以下ノ如ク、

FILE COPY
RETURN TO ROOM 361

汽船「ベレコブ」の日本飛行機ニヨル墜沈ノ真相
ニ就テデアル。

供違書ハ自筆ニ依ルモノナリ

…本船ハ武装シテオラズ、我々ニハ大砲ガナカ
ツタノミナラズ機關銃一ツナカツタ。船舶防禦ノ
爲備ヘテアツタモノハ若キ、自來銃ダケデアツテ、
本船ハ最も無害ナホ長に我見自船デアツタ。

…午前九時頃デアツタ、ソノ航空機ハ二、三機
同シ而ル後本船ニ向ツテ來タ船長ト私ハ雙眼鏡デ
ソノ航空機ヲ見始メタ而シテ航空機ガヨリ近ズク
ヤ我々ハ兩翼ニ赤イ圓形ノ「日ノ丸」ヲ見タ。ソ
レハソノ航空機ガ日本ノモノナル事ヲ證明スルモ
ノデアル。航空機ハ船ニ向ツタ、而シテソレガ殆
ド船ノ真上ニ來タ時二機ノ爆弾ガ落サレ、右舷側
(機部近ク)ニ落テタ。

…一九四一年十二月十八日朝八時乃至九時ニ我
々ハ發動機ノ騒音ヲ聞イタ、然シ誰モ飛行機ハ見
テカツタ。

…茲ハ十七機ノ又發航空機ヲ見タ、ソレハ二編
隊ニ分レ一方ハ船首カラ他方ハ船尾カラ向ツテキ
始メタ、一ツノ編隊ハ九機他方ハ八機デアツタ

我々ノ船ニハ明白ニ標識符號(船倉上ノ旗)ガ

[illegible]

PURL: <http://www.legal-tools.org/doc/6f377f/>

ト二三名ノ馬來人兵士ガ居タ。

…日本ノ航空機ニヨツテ「ラナイ」村落ガ再ビ攻撃ヲ受ケテカラ後、少數ノ島ノ土着民並ニ陸軍中尉ハ兵隊ヲ連れて島ノ奥深クニ逃グ去リ乗組員ハ只獨リ熱帯林ノ叢林ノ中ニ居泊ツタ。カクシテ半年程此處ニ生活シタ……………

一九四二年六月十四日^時早朝、私ハ八名ノ船員ト共ニ島ヲ出發シタ。我々ヲ送ツテクレタ同志達ハ我々が再び會フトハ豫期シナカツタ。「ボート」ハ非常ニ小サカツタ、而シテ「ボート」ノ中ニ居ル者ハ辛ジテ坐レル程度デアツタ。水面上ノ舷ノ高サハ十五呎ニ過ギナカツタ。貯藏食糧ハ次ノ如キモノデアツタ。即テ

淡水、椰子ノ實、干燥シタ根芋デアル。

我々ハ外海ニ居ル事七晝夜七月始めニ「ボルネオ」島ニ着イタ。我々ハ疲勞シ、頭ニ搖ヘレ、裸体デ、空腹デアツタ。「ボルネオ」島ニハ既に日本軍ガ居タ即チ最初我々ハ「ラヂエイ」河岸ノ「スリケイ」町ニ着イタガ、此處ニ於テ翌日我々ハ日本ノ兵士達ト會ツタ。彼等ハ我々が何人ナルカヲ尋ネタガソレヲ知ツテ我々ヲ粗野ニ取扱ヒ皆ヲ搜索シタ。同日我々ハ「シブ」市ニ送致サレタ。此處ニ於テハ日本士官ノ命ニヨリ我々が「ロシヤ」

2305-5

ノ船員ナルコトヲ知ツテ、我々ヲ精神病院ニ送ツ
タ。コノ病院ノ半分ハ氣ノ狂ツタ文郡人、馬來人
ヲ占メラレ他ノ半分ハ我々ニヨツテ占メラレタ。
之以上ノ思ムベキ嘲弄ヲ私ハ余ダ見タコトガナカ
ツタ即チ健全ナル運佐ヲ有スル者ヲ精神病院ニ入
レル事ハ余リニモ語イ嘲弄デアル。

署名

太平洋地區軍事檢察官

法場中佐

シユルイデコフ

書類第二三〇五號

證

2305-6

余中山登ハ余ガ日本語及ビ露西亞語ニ
精通セル者ナルコト並ニ露西亞語原文及
ビ日本語原文ヲ對照ノ上右ハ本書類ヲ眞
實ニ且正確ニ翻譯セルモノナルヲ確證セ
ルコトヲ茲ニ證ス

昭和二十一年九月六日

中山登